青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

会報　第５号　　平成２６年６月５日発行　　会長：嶋田博信

事務局:NPO法人安房文化遺産フォーラム(〒294-0036 千葉県館山市館山 95 小高記念館)

TEL&FAX：0470-22-8271　E メール awabunka@awa.or,jp

公式サイト http://aoki-shigeru.awa.jp/　*New!* ブログ布良･相浜の漁村日記 http://meranoumi.wordpress.com/

＊＊会員募集中！　年会費 2,000 円　郵便振替口座 00150-6-616201＊＊

青木繁《海の幸》誕生の家･小谷家住宅の修復工事が始まりました。

－ 平成 28 年春に公開をめざして －

-昭和初期頃の小谷家住宅-

-三者覚書調印の記者会見風景-

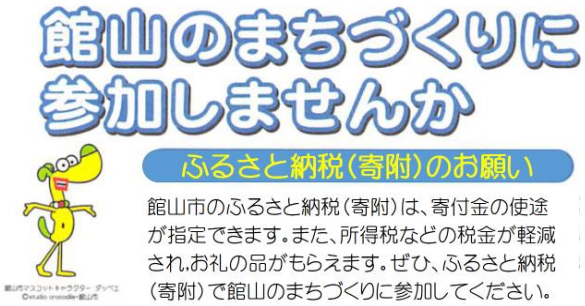
今年は、青木繁が房州布良の小谷家に長逗留し、国の重要文化財『海の幸』を描いてから、110 年目にあたります。明治中期に建てられたといわれる小谷家住宅は、屋根は瓦葺、寄棟造で、安房地域に見られる分棟型民家の特長をもっています。当保存会は、2009（平成 21）年に館山市有形文化財に指定された小谷家住宅の管理団体となっています。保存会では、住宅裏手のせまい崖側で鬱蒼としていた樹木を伐り倒して崖下に落とした後、縛りつけて崖上の神社側へ人力で引き上げる作業をしました。重労働でしたが、修復工事前の安全確保ができました。

小谷家当主・当保存会・ＮＰＯ法人青木繁「海の幸」会（全国の画家組織）・館山市教育委員会生涯学習課による「四者協議会」の話し合いを重ね、教育委員会を除く三者で修復・公開に関する覚書を今春交わしました。修復基金は、募金活動やチャリティの青木繁「海の幸」オマージュ展など多くの皆様のご支援とともに、館山市の補助金も決定し、約半額が集まったことを受け、いよいよ修復工事が２ヶ年の計画で始まりました。まず敷地内の物置を管理棟として増改築して、小谷家当主夫妻の居住部とします。移転後の秋より、母屋の文化財部分を半解体し、来年度に修理をおこない、2016（平成 28）年春に公開の予定です。引き続きお知り合いへも呼びかけていただき、修復基金へのご協力をお願いいたします。

＊小谷家修復基金への寄付のお願い＊

館山市ふるさと納税では、「小谷家住宅の保存･活用に関する事業」を指定して寄付をすることができます。

くわしくはパンフレットをご参照ください。



お問合せ先　館 山 市 役 所

〒294－8601 千葉県館山市北条1145-1

◆ふるさと納税（寄附）に関すること

市長公室　企画課0470(22)3163

◆税金の控除に関すること　総務部　税務課0470(22)3262

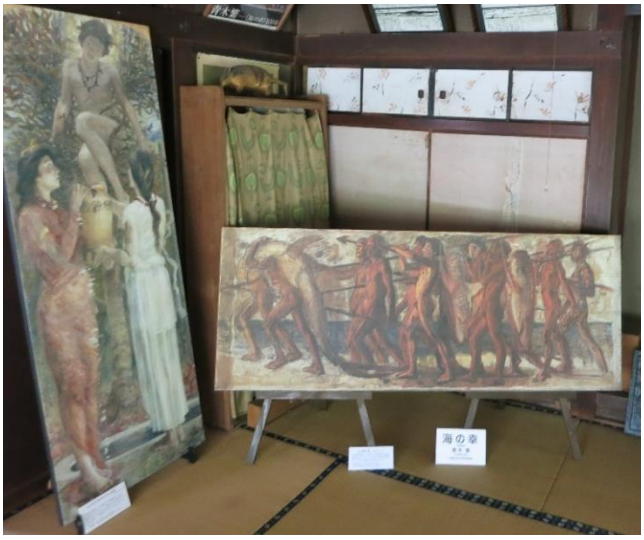
◆館山市ホームページ　http://www.city.tateyama.chiba.jp

氏名公表可の選択をお願いします。館山市ホームページで紹介されます。

保存会では、こんな活動をしています。

◆ 小谷家住宅に、同寸大の複製画レプリカを作成しました。

《海の幸》《わだつみのいろこの宮》



広い美術館では小さく見える《海の幸》も、制作現場となった小谷家のオクフタマで見ると、重厚な存在感ある大作です。縦 70.2cm・横 182 センチの同寸大の複製画レプリカを制作した島田吉廣氏（有限会社アートプロセス代表取締役）は、カラースキャナー１級技能士（労働大臣認定）の資格を有する日本有数の色彩印刷技術者です。できるだけ原画の色彩を忠実に再現するため、石橋財団石橋美術館より借用したデジカメデータ（R/G/B）を印刷インキの Y・M・C・BK に変換し、（株）コダックのステップタブレットを使用して階調補正し複製印刷しました。

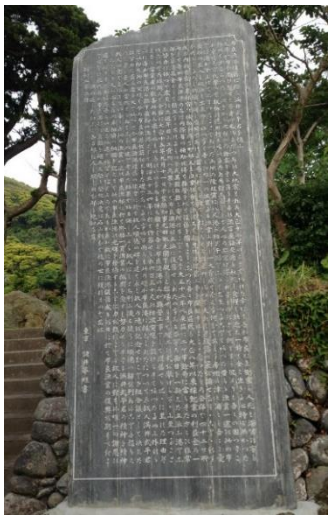
◆ 小谷家住宅から江戸時代のひな人形や明治時代の古文書や書画を発見！

小谷家住宅では、かねてより明治期の資料や書画が大量に発見されており、青木繁が滞在した当時の小谷家が果たした役割や、富崎村の様子が分かってきました。　このたび、納戸から４対の雛人形と１対の高砂人形、大黒様、恵比寿様、五人囃子などが発見されました。ひな祭りに合わせて展示・一般公開し、保存会では甘酒の接待をしました。４日間で 300 人近い方が来訪し、大変喜ばれて、皆様から約７万円の修復基金をいただきました。

皆様のお宅にも古い資料や漁具などがありましたら、捨てずに保存会へご相談ください。もしかすると、貴重なお宝かもしれません。

◆ 青木繁「海の幸」記念碑の草刈りや神田吉右衛門・満井武平の顕彰碑の洗浄をしました。

阿由戸の浜に昭和 37（1962）年建立された青木繁没後 50 年記念碑は、平成 10（1998）年に解体の危機に遭いましたが、子どもたちに地域の誇りを語り継ぎたいと願う富崎地区コミュニティ役員や連合区長らの熱意により撤去を免れ、現在は保存会にて草刈り整備を行なっています。当時の田村利男館山市長の呼びかけで、坂本繁二郎・辻永・河北倫明ら画壇の著名人が発起人となって基金を拠出、欧米の現代建築を日本に紹介した東京大学教授・生田勉が設計したものです。



休校中の富崎小学校と布良崎神社境内には、それぞれ神田吉右衛門と満井武平の碑があります。青木繁が滞在した小谷家当主・喜録とともに、漁村の発展に貢献した富崎のリーダーでした。地域の偉人を顕彰し語り継ぐために、保存会では碑を洗い、文字が読めるように磨きました。

神田はアワビ漁を村営にし、漁獲を村の共有財産として教育や公共事業に尽力した富崎村長です。神田の遺志を継いだ甥の満井もまた村長となり、関東大震災の隆起で干潟になった漁港を、３年で復旧した功労者です。

昨今、小谷家からは満井の追悼句集も見つかり、全国的にも文化度の高い漁村であったことが注目されています。

◆ ヘリテージまちづくり講座を開催しました。

～文化庁「文化遺産を活かした地域活性化」補助事業

① シンポジウム東京湾まるごと博物館
② 上総地区の東京湾要塞の戦争遺跡見学
③ 小谷家から見つかった明治期の資料を保管・管理
④ 佐倉の城跡・戦跡・武家屋敷のまちづくり視察
⑤ 館山の歴史建物見学
　・紅屋商店　・赤門鈴木家住宅　・小高記念館
⑥ ふるさと館山松岡の偉人・福原有信を語るつどい
⑦ シンポジウム館山まるごと博物館

◆ 館山と縁の深い東京の歴史建物を視察しました。

小谷家住宅の公開を見すえて、保存会会員を中心に 24 名が、東京の歴史建物を保存・活用している先進事例２ヶ所の視察バスツアーを行いました。いずれも、館山と不思議な縁で結ばれた歴史があります。

中村彝（つね）アトリエ記念館（新宿区下落合）	旧安田楠雄邸庭園（文京区千駄木）
水戸生まれの中村彝は 18 歳で結核になり、房州北条町（館山市）に療養しながら、画家を志しました。1910（明治 43）年布良で描いた《海辺の村（白壁の家）》が、第4回文展3等になりました。新宿中村屋サロンに集い、相馬愛蔵・黒光夫妻の支援を受けました。 大正期建立のアトリエは 1970 年代から再三の保存運動が繰り返され、2007（平成 19）年「中村彝アトリエ保存会」設立、区議会審議を経て、2012（平成 24）年改築、翌 2013（平成 25）年春「新宿区立中村彝アトリエ記念館」として開館しました。管理運営は、公益財団法人新宿未来創造財団が委託されています。茨城県立美術館には復元されたアトリエがあり、となりの県民文化センターには中村彝像があります。 《海辺の村（白壁の家）》は国立博物館に所蔵されていますが、新宿中村屋の暖簾分けで昭和初期に開業した館山中村屋本店（館山駅前）2階喫茶室には、同寸大の複製画が常設展示されています。	1919（大正 8）年、豊島園創業者の藤田好三郎が建てた近代和風建築。1923（大正 12）年秋、安田財閥・安田善次郎の所有となり、関東大震災で被災した三女夫妻が居住。1996 年まで安田家が使用していましたが、当主・楠雄の逝去後、遺族の意志を受けた「たてもの応援団」の尽力により、財団法人日本ナショナルトラストに寄贈されました。1998（平成 10）年東京都名勝に指定、翌年から本格的な復元修理事業を開始し、2007（平成 19）年に一般公開が始まりました。管理運営は、NPO 法人文京歴史的建物の活用を考える会（たてもの応援団）が委託されています。 なお藤田家以前には、1901（明治 34）年に本郷中村屋を開いた相馬愛蔵・黒光夫妻が住んだ地であり、近隣には彫刻家の高村光雲・高村光太郎もいました。相馬夫妻が新宿に出店する際、本郷店を任されたパン職人・長束實は、1927（昭和 2）年、人の勧めにより館山中村屋を開業したといいます。

◆ 韓国から文化まちづくりの視察団が来訪しました。

韓国政府の文化体育観光部と韓国文化研究院の職員や研究員ら約 30 名が日本の観光振興視察のため来日し、布良の小谷家住宅や布良崎神社を見学しました。保存会では、地元のテングサでつくったトコロテンをふるまい、神話のふるさとである漁村の誇りをガイドしました。韓国の皆さんは神話と祭りの神輿から名画誕生につながったという物語性に感銘し、住民参加型のまちづくりと手づくりのもてなしを喜んでいました。

ほかにも、女子美術大学 86 名、ＮＰＯ法人アクションおっぱま 39 名、ＮＰＯ法人青木繁「海の幸」会 9 名、矢板市民大学修学旅行 13 名、東葛飾高校 25 名、君津地方社会教育委員連絡協議会 25 名、高校教職員組合・高校退職教職員組合 33 名、コープ未来・生協ピースの会 35 名、館山市サークル連絡会歩こう会 11 名、生涯大学南房学園 17 名、千葉大学教職課程 24 名、東京学芸大学 11 名などの団体が来訪し、年間 820 名が小谷家住宅を見学しています。館山の戦争遺跡や里見氏城跡、アジア交流の史跡、地震の隆起痕跡などと組み合わせた「館山まるごと博物館」のスタディツアーが好評です。見学ご希望の場合は、事前に保存会事務局（ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム）へ予約申し込みをお願いします。

＊これからの活動予定＊

小谷家住宅の公開見学日

平成 26 年 7 月 26 日（土）　8 月 23 日（土）　8 月 24 日（日）　10:00～15:00

秋から母屋の半解体と改修が始まります。その前の特別公開です。JRバス「安房自然村」バス停から徒歩 2 分。

青木繁《海の幸》フォーラム

平成 26 年 7 月 27 日（日）13:30～　千葉県南総文化ホール小ホール

基調講演　・**森山秀子**（石橋財団石橋美術館学芸課長）
パネルディスカッション　・**吉武研司**（ＮＰＯ法人青木繁「海の幸」会理事）
・**小谷福哲**（小谷家当主）　・**島田吉廣**（労働大臣認定カラースキャナー１級技能士）
・**愛沢伸雄**（ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム代表）　・**池田恵美子**（コーディネーター）

《海の幸》誕生から 110 年を記念し、作品を所有する福岡県久留米市の石橋美術館から講師を招き、富崎地区の歴史をひもとき、同寸大の複製画を制作する過程において発見した気づきや新解釈を披露し、青木繁を愛する人にとともに語り合う集いを開きます。

青木繁《海の幸》オマージュ展

平成 26 年 8 月 5 日（火）～31 日（日）　渚の博物館
8 月 5 日（火）～24 日（日）　館山市コミュニティセンター展示室

ボランティア募集！
コミセン会場の受付・監視のお手伝いに皆さんの力をお貸しください。
午前または午後の3時間ずつ交代とします。

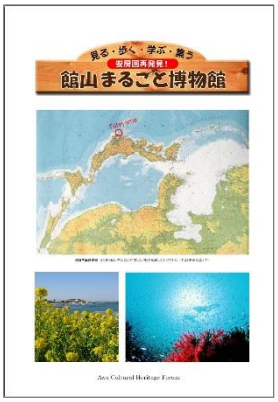
＊館山市の関連事業＊
・**ふるさと講座**　**金澤　毅氏（美術評論家）**
7 月 19 日（土）13:30～15:00　館山市コミュニティセンター
・**ギャラリートーク①　永井龍之介氏（永井画廊代表取締役）**
8 月 5 日（火）11:00～12:00　渚の博物館
・**ギャラリートーク②　金澤　毅氏（美術評論家）**
8 月 23 日（土）14:00～15:00　渚の博物館

小谷家住宅の修復基金を目的に発足したNPO法人青木繁「海の幸」会が、平成 23（2011）年より全国巡回で開催してきたチャリティ展覧会です。今年は、銀座・京都・福岡・田園調布などとともに、館山展が開催されます。館山市・教育委員会が共催、館山美術会が協賛、当保存会も協力し、全国から高名な画家のみなさんと館山美術会の作品が市内2会場で展示される素晴らしい機会です。出品希望の会員は事務局にお問い合わせした下さい。

また、コミュニティセンター会場では、保存会の会員の皆様に受付・監視のスタッフ派遣も協力してほしいと依頼がありました。ご趣旨をご理解のうえ、ぜひご協力をお願いします。

ヘリテージまちづくり講座

ヘリテージとは文化遺産を指し、世界遺産はワールドヘリテージといいます。今年度も引き続き、文化庁「文化遺産を活かした地域活性化」補助事業に採択されました。昨年は、明治期の漁村を物語る貴重な資料の整理・保管・目録づくりなどを学びましたが、今年は古文書や書画類の修復（裏貼）や表装などについて専門家の指導を受け、技術を習得します。

また、佐倉市の歴史建物視察ツアーなど、多様な文化遺産を保存・活用する「館山まるごと博物館」について学びます。日程調整中のため、参加希望の方はホームページまたは電話でお問い合わせ下さい。

「館山まるごと博物館」のパンフレット・DVD・ガイドブック・報告論文集『ヘリテージまちづくりのあゆみ』も、テキストとして活用下さい。